

ふじのくにグローバル人材育成事業 報告書

参加した コース	ふじのくに地域探究コース (多文化共生・多様性コース)			訪問国	オーストラリア
学校名	静岡市立高校	氏名	大石 怜采	学年	2年

【テーマ】

日本独自の文化である”kawaii”を広めることで、言葉の壁を超えて人々に癒やしを届ける

【背景】

私は日本の言葉である”kawaii”が海外のかわいいという意味を表す pretty や cute とは少し違ったニュアンスを持っていることに着目し、サブカルチャーと幸福度の視点から探究を進めました。きっかけとなったのは、私が好きなキャラクターであるすみっコぐらしの san-x 株式会社です。会社のホームページに”kawaii”がほかの国の言葉とは違い、癒しを感じるような意味を含んでいるということが書いてあり、とても興味深く思いました。

【課題】

現代はストレス社会と言われるほどストレスが多いということもあり、日本独自の言葉である”kawaii”が国を越えて人々に癒しを与えられるように”kawaii”の可能性を見出したいと考えました。

【検証】

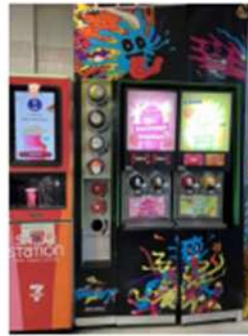
① 留学先選び

留学先をオーストラリアにした理由はオーストラリアの多文化共生に惹かれたからです。私は料理研究家のレイチェル・クーさんの番組でメルボルンのチャイナタウンが紹介されていたのを見ました。最初に見た時、なぜオーストラリアのメルボルンを紹介するのにチャイナタウンなのだろうと感じ、メルボルン独自の食べ物を紹介したほうがメルボルンの魅力を発信できるのではないかと考えました。しかし、中華は中華でもほかの国の料理と組み合わせで作られたという料理や店主の思いなどを見ていく中で多文化共生こそがオーストラリアの魅力なのだと思い始め、そこでオーストラリアの魅力に気が付き、日本の言葉を広めるためには多文化共生を自分の目で見て学びヒントを得ることが大切だと考え、ぜひオーストラリアで自分の探究をしたいと考えました。



② 探究活動内容

サブカルチャーを通して、国民性の違いを捉えられるのではないかと考え、街を探索する中でオーストラリアで人気のサブカルチャーを探しました。また、現地の教会や街頭で約200名の現地の方にインタビューを実施しました。そこでは、日本のキャラクターと現地で人気なものとの違いや、日本のキャラクターにどのようなイメージを持つかなどを聞きました。同時に日本のキャラクターを紹介し、“kawaii”という響きを持つ癒やしを現地の人々にも体験してもらうための普及活動も行いました。



【結果】

街を探索する中でオーストラリアで人気のサブカルチャーを見つけました。例えば、スプレーアートです。現地では、派手なものが好まれる傾向が見受けられました。日本のキャラクターは見ていて落ち着くものが多く、そこに人々がサブカルチャーに求めるもの違いや国民性を感じました。さらに、現地の教会や街頭でのインタビューでは、現地で人気なものとの違いやどんなイメージを持つかなどを聞き、街頭のインタビューなどでは「優しく淡い色合いだと感じた」(gentle, pale)や「リラックスする感じ」(feel like relax)など癒しを感じたというような声が多く、やはり日本の“kawaii”にはどの国の人にとっても癒しを与えるような力があるのではないかと感じられる結果でした。また、街ではすみっこぐらしは見なかったが、日本のキャラクターを見つけることができました。しかし、期待していたよりも“kawaii”という言葉の知名度は低く、“kawaii”という言葉を知っていると回答した人数はインタビューした中で約200名のうち、2人だけでした。街頭インタビューで集めた意見からやはり“kawaii”には人に癒しを与えるような効果があると考えられ、まずはその価値を広めることで“kawaii”という共通言語を持ち、感情を共有できると考えました。



【結論】

今回の探究を通して、文化を反映したサブカルチャーには言語の壁を越えていけるような力があると感じました。そこで、まずは魅力を知ってもらうところから始めたいです。具体的には海外で日本のキャラクターなどをテーマとしたイベントを開催し、トビタテの仲間からもらった意見の中で“kawaii”に関する紹介やキャラクターを集めて外国語でナレーションなどをつけた映像を作製するなど、実際に試してみたいと思っています。